

# 木質バイオマス発電所も完工



発電所の完成式典でテープカットする関係者。後方がボイラー、左側の建屋に発電機がある

## 未利用材の有効利用

### 森林整備に 雇用増大も

山に放置されること  
が多い間伐材などを原  
料とする木質バイオマ

ス発電所が日田市天瀬  
町に完成し8日、完工  
式が開かれた。福島県  
会津若松市に次いで全  
国2カ所目。市場価値  
の乏しい間伐材の有効

利用は森林の整備や山  
林での雇用増大につな  
がるとして注目を集め  
る。

グリーン発電大分  
(森山政美社長)の天

瀬発電所。燃料は半  
径50センチから集めた  
未利用材が中心で、製  
材くずなども一部利用  
する。専用の破砕機  
で縦横5センチ以下のチッ  
プにし、乾燥させてボ  
イラーで燃焼。蒸気  
でタービンを回して発  
電する。発電規模は  
5700キロワット。所内使  
用分を除いた5000

キロワットを、固定価格買い  
取り制度(FIT)  
で売電する。総事業費  
は約21億円で、県か  
ら約8億円の補助を受  
ける。年間売り上げ  
は10億円を見込んでい  
る。

FITは再生可能エ  
ネルギーの利用促進を  
目的に電気を一定の価  
格で買うしくみ。原料  
が未利用木材なら1キ  
ロワットあたり33・6円で  
20年間売電できる。

森山社長は「未利用  
材がもったいないとい  
うのが原点だが、FIT  
が追い風になった。  
未利用材に付加価値を  
つけ、日田モデルと言  
われるようにしたい」と  
意気込みを語った。

【池内敬芳】